

【生薬名】忍冬 *LONICERAE HERBA*

【起源植物】スイカズラ *Lonicera japonica*



【科名】スイカズラ科 *Caprifoliaceae* (スイカズラ科 *Loniceraceae*)

【別名】吸い鬘、忍冬は忍冬藤、銀花藤ともいう

【薬用部分】蔓茎

【主成分】葉・サポニン (ラムノース配糖体のロニセリン)

全草・タンニン、苦味配糖体ロガニンなど

【薬性】気味は甘寒、帰経は肺胃心脾に属す

【効能】●清熱解毒・通絡

●種々のはれもの、風邪、熱、下痢、むくみ、関節痛、腰痛に

忍冬は1日30gを煎服、金銀花は1日6~9g

●痔、あせも、腰痛に忍冬100gを濃く煎じて風呂に入れる

●口内炎には濃く煎じてうがいをする

●ともに代表的な清熱解毒薬で癰腫瘡毒、温病発熱、熱毒血痢、筋骨疼痛、皮膚の各種化膿、特に背中や乳房など身体表面の化膿、流行性肝炎、細菌性下利などの分野での応用が目立つ

●実験的な抗菌スペクトルはかなり広い

●化膿性皮膚疾患、感冒、腸炎、細菌性下利などに金銀花は利用

●忍冬は急性肝炎、血便、内臓の病症に利用

【出典】●通利尿道、諸腫毒、癰瘡、疥癬、諸悪瘡毒、淋疾。(一本堂薬選)

●(名医別録上品)

【備考】●忍冬の清熱解毒の力は金銀花より弱いが祛風活絡の効能は強い、

清熱解表薬のほか風湿の痺痛にも使用する、1日5~10g

【処方例】●紫根牡蛎湯